

その中の事情は次の通り

「既舎掛の不満は、寄附金主部が即ち和成衣の衣の採来眼の衣主部の出来
於二十一谷の既主部小林村大根村十四谷の権了」

「其の邊の對峙は向等近善を以てよむ」八月四日午前四時工升妻山田千升千
韓誠の如く「寄附金員を人間と」し「取返ふこと」し「云ふ辭掛」し「御機嫌を見
去る八月一日高麗のき祭正金の舍母頼の權了」し「儲蓄發生を見」し「既頼富官の
「儲蓄の權了」し「手糸織造林友會」の「富工級儲蓄會」の「

「發生原因」 人事科特示、舍掛特示

「罷業開始日判」 田味八平八月十五日、前八朝

「費用蠲工級」 吉興工四〇谷、又工工級、三八十谷

「罷業参加人員」 田味文三三二名、甲勝文工三六〇名、情六八二名

「罷業發生日判」 田味八平八月六日午前五朝

「罷業手糸織造林友會」 田味富工級儲蓄會、古出地出地、大

「罷業手糸織造林友會」 田味富工級儲蓄會、古出地出地、大

多寶第三四號

田味手糸織造林友會、田味富工級儲蓄會、古出地出地、大

昭和八年八月二十三日

法人附請會、古出地出地、大

「神吉外四名の工手係寄宿舍係は我々に對し粗暴の言辭を用ひ、或は濫り
に寄宿舍内に入し迷惑を感ずるを以て斯様なことの無いやうにして下
さい

「神吉勇藏を解職して下さい

の要求をなし五日正午迄に回答されたと申出でた。

かくて五日午后七時より現場主任等と交渉したが解決せず六日午前二時より同
工場長阿部莊吉氏に會見し嘆願したが、人事關係については考慮はするが希望
を直ちに容れることは出来ない」と回答したので六日午前五時より前番乙組六二
二名中三二二名は就業せずして罷業に出で午后二時に至り後番甲組五九七名中
三六〇名もこれに合流して罷業に入る。

阿部工場長の回答に對して不満をいとし、代表二二名は直ちに辭表を提出し
て直ちに縣工場課に出頭、午前十時半畑工場課次席に種々陳情して次の如き陳
情書を提出した。

陳 情 書

「私達は昭和毛糸株式會社彌富工場寄宿舍に居住する多くの姉妹が人格を認め